

尾ノ上の風 II

第4号

学ぶ きたえる 助け合う

文責：校長 村上 正祐



子どもたちと会えた貴重な30分

28日の臨時登校日に向けて入念な消毒作業を行いました。当日、職員の朝会（オンラインで朝会）で、廊下も教室も窓を全開しての換気と手洗い消毒の声かけを確認し合い、大変緊張した中で登校日を迎えました。

担任以外は、校区の交通指導に手分けして立ちましたが、何よりありがたかったのは、校区の交通安全協会やパト隊の方々がたくさんご協力いただいたこと、そして、学校まで送ってこられた保護者の方が多かったことです。ありがとうございました。

町内を3グループに分けての時差登校のため、1クラスの人数は3分の1くらいになり、密な状態を避けて、子ども達と担任との久しぶりの再会の時間を取ることができました。

学年で取り寄せていた教材や学年で準備したプリントなどを子ども達に渡したり、使い方を説明したりしました。そのことはとても大切なのですが、職員から子どもたちに元気を与えてもらいたい、子どもたちに友だちや先生と顔だけでも会わせるのがうれしいと実感してもらいたいというのも大きな願いであり、各担任や学校職員もそのことを意識して学級活動を進めたり、運営にあたりました。

先日、熊本大学の情報教育研究会でオンラインのZOOM会議（全国から230人）に参加しましたが、その中で印象に残ったことのひとつに、「子どもの心の温度を上げる」ということがありました。

簡単に説明すると、子どもたちは外とのコミュニケーションが極端に取れなくなっており、心の温度が下がったままです。友だちや先生と交わす会話、友だちと学ぶ楽しさを味わえるということが何より大切であり、心の温度が上がらなければ、学びにも心は向かわないという話で、遠隔授業も会話の時間が必要ということでした。

教室での滞在は30分でしたが、とても貴重な時間を過ごすことができました。今後は安心メールやホームページを通じての連絡が中心となります。学校からは子どもたちに、できるだけたくさんメッセージを発信していきます。ご心配な点、お尋ねになりたいことなど遠慮なくご連絡ください。ただ、職員の7割が在宅勤務をしております。学校から必ず担任に連絡を取りますのでご安心ください。どうぞよろしくお願いいたします。



元気な挨拶をしながら登校する様子(上)と子どもと話をする高橋先生(下)